

平成 27 年度事業報告書

研究所の設立者である大倉邦彦は、『大倉山論集』第 8 輯（昭和35年 7 月発行。30 周年記念号）において、次のように述べています。「科学文明のみが絶えず進歩して、一方、精神文化の方面はこのまま足踏みの状態を続けているならば、折角発達進歩した科学の力も人間に真の福祉を保障する訳には行かなくなるかも知れない。」。大倉邦彦のこの指摘は、現代社会にも共通する、極めて重い課題といわなければなりません。

公益財団法人移行後 4 年目となる平成 27 年度（以下「27 年度」という。）では、こうした課題意識のもとに策定した次の三つの柱で構成される事業計画に基づき、定款第 4 条に定める公益目的事業を着実に推進しました。

- ①精神文化に関する研究及びその成果の公開
- ②地域における歴史・文化の研究及びその普及
- ③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備

1 精神文化の研究及びその成果の公開(定款第4条第1項第1号)

(1) 精神文化の研究

精神文化の研究は、東西両洋における精神文化の科学的研究を行い、その成果を国民に提供することにより、文化の振興の原動力となる国民の知性及び道義の高揚を図っているものです。

27 年度では、心豊かな国民生活の実現と文化の振興に資する次のような精神文化の研究及びその成果の普及活動に積極的に取り組みました。

ア 実用の学の研究

当財団は、精神文化についての学術的な一面とともに、その学問が現実社会の宗教・教育・政治・経済の实地にふれ、よりよき社会への進展に貢献するという一面も備えていることが重要であると考えています。実用の学の研究では、このような考えのもと、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料収集を行っています。

実業家大倉邦彦は、実用の学の理念を自身が経営する富士見幼稚園や農村工芸学院、東洋大学などの教育施設で実践しました。

そこで、27 年度は、幼児教育、青少年教育、生涯学習、放送教育、現地主義教育など多様な視点から教育に関する研究を行いました。

その研究成果の一部は、大倉山講演会や公開講演会、研究紀要『大倉山論集』第 62 輯の特集で発表しました。

また、創立者大倉邦彦は精神文化事業を通して人材を育て、社会を良くしようとしまし

たが、大倉邦彦以外にも様々な実業家が社会貢献活動をしています。彼らがどのような思想、理念に基づき、いかなる社会貢献をしたのかを研究し、その成果の一部を大倉山講演会で発表しました（付属明細書 2 頁参照）。

イ 東西文化融合の研究

当財団は、定款に定めた目的を達成するために、東西両洋における精神文化の科学的研究を行っています。

創立者大倉邦彦は、教育や人格形成において、東洋文明の枠組みに囚われることなく、西洋文明の学問成果も積極的に取り入れることを提唱しました。

日本の近代化と西洋文明の受容は、日本人の価値観に大きな変化を及ぼし、近代以前と宗教の有り様を大きく変化させました。そこで 27 年度は、近代化と宗教、特にキリスト教に着目して研究を進めました。さらに、国際文化人として東洋と西洋で活躍した岡倉天心の研究を進めました。研究成果の一部は、公開講演会で発表しました（付属明細書 2 頁参照）。

ウ 創立者及び研究所関連資料の研究・調査

精神文化についての科学的研究及びその普及活動を行う上で、研究の基礎となる資料を収集・整理・保存することが欠かせません。それを実践することにより、研究及びその普及活動を効率的・効果的に進めていくことができます。

このような考え方に立って、創立者である大倉邦彦の思想や事績、研究所の創立から現代に至る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施しています。

27 年度は、アナログ音源のデジタル化事業や「日本精神文化曼荼羅」の環境整備事業などに取り組みました。

①アナログ音源のデジタル化事業

当財団では、大倉邦彦を始めとする研究所関係者の肉声を記録したオープンリールテープや各種カセットテープ、SPレコードなどを所蔵しています。しかし、テープ類は劣化が著しく、また再生機器も無くなっているのが実情です。そこで、27 年度は、オープンリールテープ 7 本をデジタル化しました。さらに、デジタル化した音源の一部や、26 年度に制作した DVD 作品をインターネットで公開しました。

②「日本精神文化曼荼羅」の環境整備事業

附属図書館に掲げてある「日本精神文化曼荼羅」は、大倉邦彦の発案により、研究所創立の精神と活動理念を具象化したものです。当財団の至宝といえますが、経年劣化により亀裂を生じたため、26 年度に破損箇所の修復作業と劣化調査を行いました。27 年度は、今後の劣化対策・物理的損傷の回避・環境管理などのための方策を検討しました。

③名刺の整理とデータベース化事業

当財団では、創立者の大倉邦彦や研究所員が受領した各界著名人の名刺を 4,564 点所蔵しています。これらの名刺は、研究所と各界の関係を知ることができる貴重な資料ですが、これまで未整理でしたので、26 年度より整理を始め、27 年度で整理作業とデータベースへ

の登録が完了しました。

④海図の復元事業

戦時中に大倉山へ疎開していた海軍気象部が残した資料として、26年に書庫内より旧海軍の海図が多数発見されました。歴史資料として非常に貴重なものですが、戦後の紙不足により、裏面を図書カードとして使用するために、細かく裁断されており、原形が判別不能な状態にあります。そこで、海図の復元を行い、展示公開し、その後閲覧・研究に供せるようにしました。

(2) 精神文化研究成果の普及

精神文化研究成果の公開は、上記「(1) 精神文化の研究」等の研究成果を国民生活の向上充実に役立つように公開しているものです。27年度は、次に掲げた講演会等を実施しました。

ア 講演会等の開催

- ①大倉山講演会は、横浜市大倉山記念館指定管理者との共催で4回、その他1回開催しました（付属明細書2頁参照）。
- ②公開講演会は、愛知大学との共催で1回、岡倉天心市民研究会との共催で1回開催しました（付属明細書2頁参照）。
- ③港北図書館友の会主催の講演会に2回協力しました（付属明細書2頁～3頁参照）。

イ 資料の展示

研究成果公開の一環として、研究所資料展を4回、その他の展示会を2回開催しました（付属明細書3頁参照）。

ウ 印刷物の編集及び発行

既述のとおり、研究紀要『大倉山論集』第62輯を刊行しました（付属明細書3頁参照）。その他に、「研究所のしおり」第3版、講演会チラシ、展示会チラシ、展示解説等を編集発行しました。

エ 電子情報の発信

当財団のホームページ等を活用し、研究成果や講演会、展示会等の情報を積極的に発信しました。また、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用として、ツイッターによる情報発信（講演会、展示会、新刊図書、地域情報等を発信）も行いました。

2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及(定款第4条第1項第2号)

(1) 連携事業

横浜市大倉山記念館指定管理者等の5団体・機関と連携して、講演会の開催や資料の貸し出し等を行いました（再掲。付属明細書4頁参照）。

(2) 講師派遣

新羽小学校土曜塾等の 11 団体・機関からの依頼により、講演、授業、シンポジウム等に講師を派遣しました（付属明細書 4 頁～ 5 頁参照）。

(3) 依頼原稿の執筆

港北区区民活動支援センター等の 3 団体・機関発行の情報紙等へ 13 本の原稿を執筆し、掲載されました（付属明細書 5 頁参照）。

(4) 調査協力

資料所蔵者からの依頼により、新羽町の望月紀一家資料の調査と整理を行い、目録を作成し、横浜市史資料室への寄贈を仲介しました。また、都筑区の三谷氏より、地域霊場関係の資料寄贈を受けました。

大倉精神文化研究所や大倉山記念館、港北区等に関する取材に調査協力を行った記事や、当財団主催イベントの紹介記事が、『地方史研究』等の 22 雑誌・新聞・ウェブで、42 回掲載されました（付属明細書 5 頁～ 6 頁参照）。

(5) 見学案内

港北区民ミュージカル等の 6 団体・機関からの依頼により、大倉山記念館や周辺地域の見学案内を実施しました（付属明細書 6 頁参照）。

3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備(定款第4条第1項第3号)

(1) 図書館の公開

附属図書館は、哲学・宗教・歴史などの入門書から専門図書まで約 10 万冊を備えた精神文化の専門図書館です。毎週火曜日から土曜日までの 5 日間、午前 9 時 30 分から午後 4 時 30 分まで無料で公開しています。27 年度は延べ 247 日開館しました（付属明細書 7 頁参照）。

(2) 資料の収集

精神文化に関する専門的図書資料、特に神道・仏教・儒教関連に重点を置いて収集・整備を行うとともに、積極的にこれを O P A C (Online Public Access Catalog=オンラインで検索可能な図書館蔵書目録) により公開しています。27 年度は新たに 1,317 冊の図書を収集整備しました（付属明細書 7 頁参照）。

(3) 専門図書館としての機能充実

ア 貴重コレクションのデータ化

27年度は貴重コレクションから『上田艸寄贈書』(79件)、『北島亘寄贈書』(70件)のデータ入力と『名古屋大周寺文庫』(4,000件)のデータ登録準備作業をしました。また『大倉邦彦旧蔵文庫』並びに『旧制高等学校文庫』、『古文書古記録影写副本』『大名榊原家文庫』『金沢甚衛旧蔵資料』『服部富三郎旧蔵書』『貴重書』の冊子目録をPDF形式でホームページ上に公開しました。

イ 公開済みデータの再処理

OPACにより公開している書誌データのうち、著作名や著者名だけで不完全な形ものが約28,000件あります。8年計画の初年度となる27年度では、その27%にあたる6,471件について出版社や内容に係るキーワード等を盛り込んで検索し易いようにしました。

ウ バーコード貼付

閉架書庫内資料の貸出を円滑に行うため、バーコードの貼付(全体で約40,000冊)を継続して進めています。10年計画の初年度となる27年度では、約5,512冊(進捗率12.5%)についてバーコードを貼付しました。

エ 逐次刊行物のデータ化

逐次刊行物のデータ化と保管スペースの確保に向け、27年度は全ての逐次刊行物の見直しと所蔵逐次刊行物のデータ入力を開始しました。

オ AV資料のデータ化

カセットテープ、ビデオテープ、CD、MD、DVDなどのAudioVisual(視聴覚)資料のデータ化を行いました。28年度にOPACにより公開する予定です。

(4) 全国に開かれた図書館としてのサービスの充実

ア 研修参加

ブレインテック(図書館情報管理システムの業者)ユーザー研修や図書館総合展等に参加・見学し、情報の収集や作業の効率化に取り組みました。

イ 他館視察及び調査

所蔵資料の一部に劣化が進んでいるため、資料の恒久的保存に相応しい方法を調査し、実施に向けて検討を開始しました。

ウ 閲覧環境の改善

学習・研究の場を提供する第二閲覧室の利用時間を午後4時30分までに延長しました。

(5) 図書館のPR

ア ホームページの活用

貴重コレクションや新着図書の紹介、展示案内などホームページを活用して図書館のPR活動を行いました(付属明細書7頁参照)。

イ 所蔵資料の紹介展示

日ごろ目に触れる機会の少ない資料や、講演会・催事に関連した資料を紹介するために、

資料展示を3回、ミニ展示を12回、館外展示を1回開催しました（付属明細書7頁～8頁参照）。

ウ 図書館ワークショップ

大倉山秋の芸術祭・大倉山観梅会などに参加し、ワークショップ開催等図書館と触れ合う場を設けました（付属明細書8頁～9頁参照）。

(6) 修理ボランティアによる作業

平成26年10月から開始した修理ボランティアにより、27年度も引き続き中性紙を利用した貴重コレクションの保存箱作成を行いました（付属明細書9頁参照）。